

石井としひろの「館山市政かわら版」

館山市議会議員

新しい市政の展望



1. はじめに

公職選挙法はややこしく、新年のご挨拶を文書で書くことも規制されており、選挙結果に関しての御礼を書くことも禁止されていますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

2. 新市長は無難なスタート

①前市長時代から議会は過半数勢力なし

前市長の16年間ですが、議会で支持勢力が過半数を超えることはありませんでした。それでも、ほとんどの議案は無事に可決成立してきました。広域ごみ処理からの離脱案件など議会でも賛否が分かれた案件もありましたが、議員たちも最後は賛成多数で通しています。議会で市長提出議案は、過半数の支持勢力がなくとも、間違っていなければ通るのです。

②前市長は諸問題に一区切りをつけて退任

また、前市長は当面の諸課題をやり終えて退任されたので、現時点で市を2分するような対立案件はありません。

莫大な費用を要する「給食センターの建替え・館山中の新校舎建設・ごみ処理施設の大規模改修」も財政的な目途をつけ工事中、もしくは建設完了をしています。

また、「食のまちづくり拠点施設(道の駅)」も議会では、賛否両論あったとはいえ最終的には全議員が賛成したので、総論として実施の方向に変化はないわけです。もちろん、各論としての変更はありえます。

③新市長は12月10日から

前市長の任期は12月9日までで、12月10日から新市長は就任し、12月議会は新市長の登場を待って、すぐにスタートしました。新市長は、11月13日に当選した後から、就任後の準備を始め、市の職員と打ち合わせを行っているので、12月10日からフルスタートできるのです。

とはいえ、新市長は報道の通りコロナの感染もあり、新市長も職員も、かなりバタバタだったと思います。

④全議案は全会一致で可決成立

12月議会の議案は、ごみ処理場への持ち込み有料化など市民負担の増える、提案する側としては少し嫌なものもあったと思いますが、無事に全て可決成立しました。森市長にとっては、無難なスタートを切ったと言えます。

なお、可燃ごみは持ち込んでも職員の負担軽減にもならず、ゴミステーションに出せば有料なのであり、持ち

込みが有料化されるのは妥当だと思います。近隣市も有料です。

⑤森市長の考えについて

(1) 職員活躍の必要性

市長の所信表明で、個人的に印象に残ったのは、市職員が活躍できるようにしたいという意思を示したことです。

職員が市民の声を丁寧に聴いて、職員同士が議論しやすい雰囲気を作り、職員の新しいことへの挑戦を増やしたいという話でした。

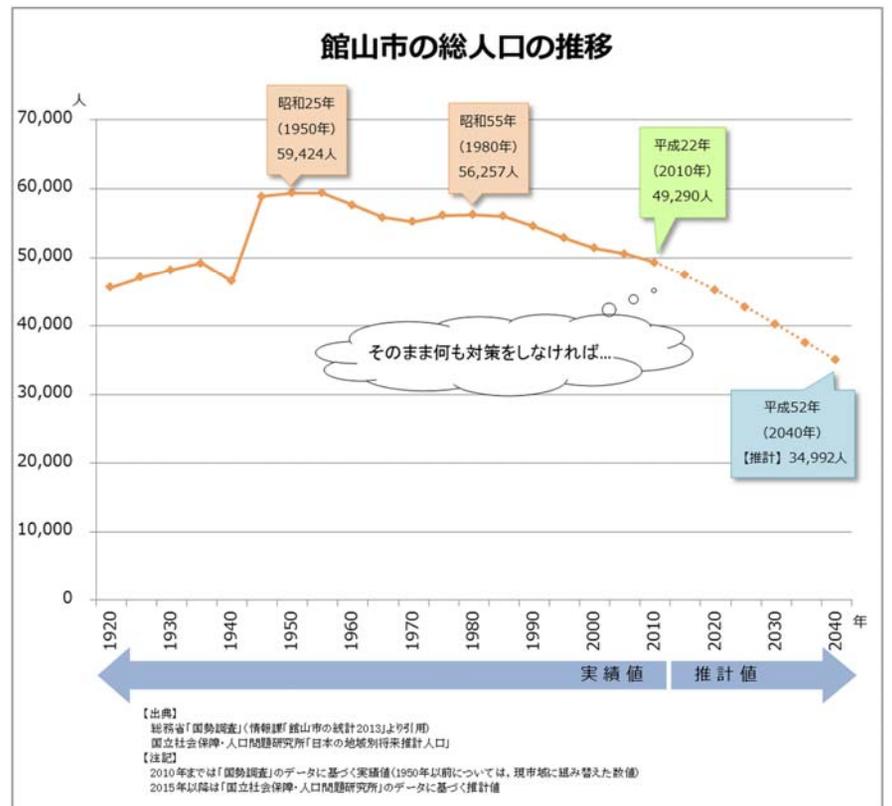
市職員は、市長の補助であり代理として勤務しています。職員との対話の巧拙が、市長として成功できるかのカギでしょう。

(2) 3市1町の広域行政

また、3市1町の広域連携を、館山市の利益だけにとらわれず進めたいという考えも述べました。市長は館山市という地方公共団体の代表であり、他市町との交渉権はまず市長にあります。交渉の巧拙も市長は問われます。

3. 今後の見込み。困難な舵取り

①人口減少はずっと続く



図は2017年に館山市が作った「人口ビジョン」ですが、2040年の予測人口は34,992人になっています。2023年1月の現在値は44,677人。ほぼ予想通りに減っています。

子どもの出生数が急激に増えるわけがなく、大量の人口流入も滅多に起こらないわけですから、人口予想が大きく外れることは少ないのです。

②「子育て世代」の社会増でしか人口は増えない

館山市の出生率は1.4程度ですが、親となりうる若者が減り続けているので、仮にすぐ2.0になったとしても、人口が維持できるのは30年後です。

そして、他の先進国の状況を見ても、1.7以上の国はフランスなど一部しかありません。出生率が2.0くらいと高い先進国は、子育て支援が充実しているだけではなく、結婚してから出産する人に加え、事実婚での出産が多く（出産のうち50%近くが婚外子で、日本とは全然違う）、移民の出産も多いという特徴があります。

このことから、人口を増やすには、外部から人を呼び込む「社会増」しかないわけです。そして、日本全国の事例を見ても、「子育て世代」の流入でしか人口は増えません。他の世代での人口はあまり定着しません。

③田舎の小学校は人気だが、中学校以上が難しい

自然豊かなところで子どもを育てたいという希望が、都市部では多くあります。一方、中学校からは大学進学を考えるので、進学校が少ないのがネックになります。

長野県では、自然豊かなところで教育を受けたい親子の移住の受け入れに熱心であり、成果を上げています。

高学歴にそれほどこだわらない親子をターゲットに「教育移住」を推進しても良いと思います。また、中学校と高校の教育も充実させたいところです。

④館山市をテレワークの先進地にしたい

館山市も遠隔地で働ける「テレワーク」に力を入れてはいますが、最低限のインフラである「Wi-Fi」と「電源」のある民間施設が十分とは言えません。また、市役所のデジタル化も今ひとつなので、会議などはオンラインで済ますなど、積極的に取り組んで欲しいと思います。



オンライン会議は便利です。写真は2年前の5月に県内の市町村議員と政策についてオンライン意見交換会を行った時のものです。知事も参加されています。

企画や事務などの仕事であれば、現地出勤するのは少ない回数で済みます。私もオンラインで会議ができるようになったおかげで全国の議員の知り合いが増えました。

たまに会う必要性は感じる場所ですが、たまに東京に出るだけなら、館山に住んでも働けるわけです。

⑤人口を増やせるのは10%程度の自治体

それでも人口が減るのは避けられないと思います。全国の90%の市町村は人口が減っていくので、増える10%になるのは、雇用のある大都市とその近郊のベッドタウンくらいでしょう。人口増加で有名な千葉県流山市も兵庫県明石市も大都市のベッドタウンで、子育て支援に力を入れています。

館山市だと都心と離れ過ぎなので、子育て支援に力を入れるなど色々工夫をしても、子育て世代の移住を大きく増やすには限界があります。

⑥人口減少に絶えるために公共施設の再編

人口の減少は財政の悪化を引き起こします。なぜなら、人口が多かった時の「街のサイズ」で、維持管理費用を少なくなった人口で賄わないといけないからです。市をコンパクトにしていく必要があります。

公民館・プール・学校などの統廃合も避けられません。このような再編を進めるには、丹念に市民との対話を繰り返し、施設の数減らす代わりに、残った施設を充実させて、市民の利便性を損なわないようにする工夫が大事です。

これから10年くらいは更に高齢化が進み、大変な時代になると思いますが、手を打てることは多いと思います。

<お知らせ>

「市政報告&意見交換会」を行います。
2月6日(月) 館山地区公民館 2F会議室

(館山小学校正門を右側)

時間: 14:00~15:30頃

入場無料・予約不要なので当日、お気軽にお越し下さい。入退室自由ですので、ご都合のつく時間だけでもいらして頂ければと思います。

*ただ、感染対策もありますので、状況によりませんが、先着40名と人数制限を行う予定です。ご予約いただけましたら、席を確保しておきます。

石井 敏宏 略歴
昭和47年2月 館山生まれ。
館山二中、安房高、立教大学
法学部卒業。平成23年4月に
館山市議会議員に初当選。



<発行者> 石井としひろ 後援会

〒294-0038 館山市上真倉320-2

TEL&FAX: 0470-23-7738

携帯: 090-1557-5515

メール ishiitoshihiro1@gmail.com

ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>